

住居衛生

八田耕吉

I. 生気象学的条件

1. 温熱条件

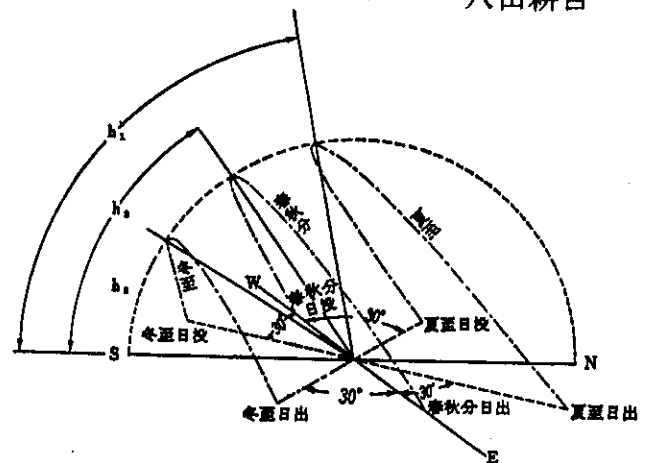
- 1) 気温、気湿、気流
- 2) 温熱指標 実効（感覚）温度

2. 日射（量）

- 1) 太陽軌道 高度、日照時間
- 2) 有害光線 紫外線、電離放射線
- 3) 輻射熱 赤外線

3. 立地

気候、自然度、生活



V-1図 太陽の軌道と太陽高度（北緯35°付近）

II. 衛生学的条件

建築物環境衛生管理基準

浮遊粉塵、一酸化炭素、炭酸ガス、温度、

1. 温熱

最適条件 不快指数

2. 湿度

水捌け、床下通風、天井高

3. 日照

採光 方向、窓、透過率

日照時間 昼光率、日陰

4. 騒音

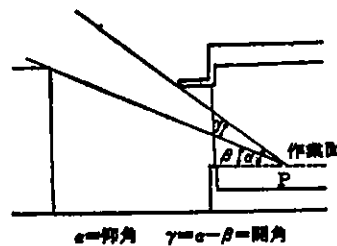
工場、近隣騒音

5. 生活

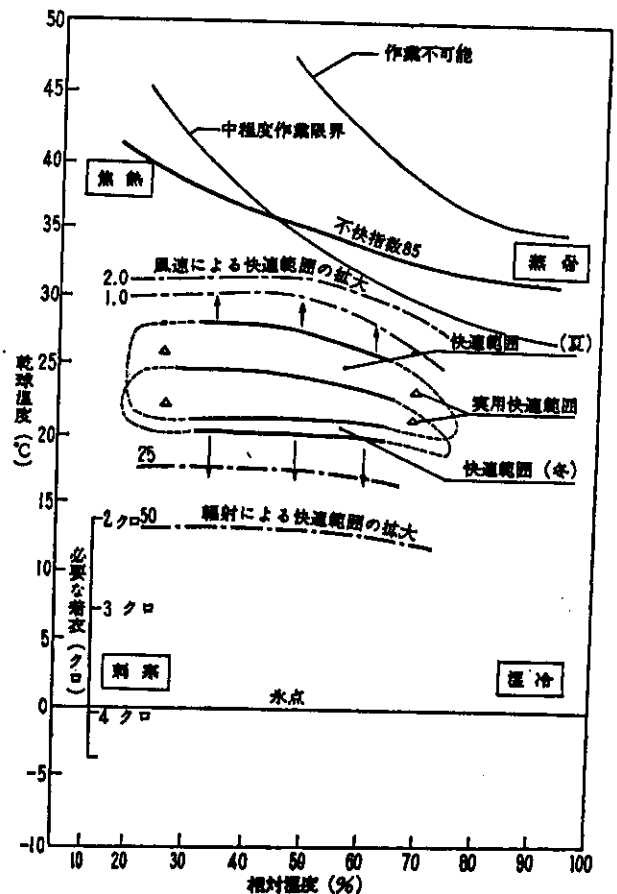
上水道、貯水槽、井戸

下水、排水

ゴミ処理



V-30図 仰角と開角



V-5図 生気候図と快適範囲、危険範囲

(本図使用：気代生電資料部)

V-14表 照光照度と昼光率（ただし、全天空照度を 5,000 lx とする）

	照度 (lx)	昼光率 (%)
細字は読みづらく、暗く感じる（最低許容限度）	10~20	0.2~0.4
細字は読める。普通の読書にさしつかえない	60~75	1.2~1.5
普通の読書に適當	150~250	3.0~5.0
通常の仕事には明るすぎる	500以上	10.0

(野々村五郎：住居学概論)

III. 衛生管理

1. 防寒・防暑

保温 断熱、緑化（木陰、屋上、壁）

暖房、冷房

2. 換気

CO₂濃度、湿度（結露）

必要換気量、換気回数

3. 照明

照度基準、均斉度

照明器具・方法

4. 防音

遮音（透過損失）、吸音材

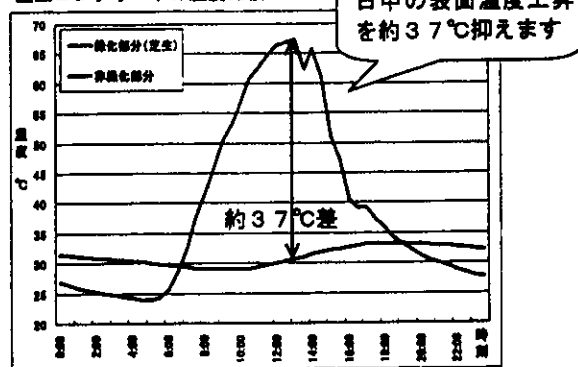
5. 防災

災害（地震、水害）、避難所

5. コミュニティー

通勤、通学（幼稚園、保育所、小学校）、買い物

屋上コンクリートの温度比較



【図-1】技術センター屋上緑化実験温度測定（2001年8月1日）

V-12表 住宅各室の必要換気回数

室の種類	必要換気回数
居室	1 ~ 2
客室	3 ~ 5
浴室	1 ~ 2
便所	3 ~ 5
炊事室	40

（花岡利晶：住居衛生学）

V-11表 CO濃度の超限度と中毒症状

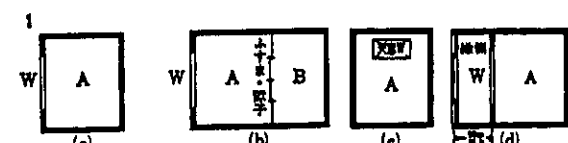
濃度%	超限度および呼吸時間と症状
0.01	長時間の呼吸の超限度
0.02	2～3時間内に前頭・後頭の頭痛
0.04	1～2時間で前頭痛、嘔気
	2.5～3.5時間で後頭痛
0.08	45分で頭痛・眩暈・嘔気・盛れん
	2時間で失神
0.16	20分で頭痛・眩暈・嘔気
	2時間で致死
0.32	5～10分で頭痛・眩暈
	30分で致死
0.64	10～15分で致死

N-1表 環境評価基準の基本理念と評価要因

基本理念	評価要因	備考
安全性	風害	自然的災害
	水害	
	地震	
	地すべり	人為的災害
	火災	
	爆発	
保健性	犯罪	自然的災害
	交通事故	
	疾病防止、衛生	
	上水道	衛生的環境を保持するための要因
	下水道	
	清掃施設	
	日照	
	通風	
	大気汚染	
	水質汚濁	
効率性	医療	都市景観・空地・高次な文化的施設
	リハビリテーション	
	保健サービス	
	日常生活施設利用	
快適性	交通	都市景観・空地・高次な文化的施設
	コミュニケーション	

（目録原簿：住宅 1945.5）

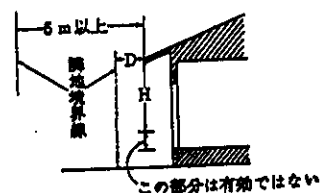
第28条（居室の採光及び換気）



住宅の場合 $W \geq \frac{1}{4}A$ $W \geq \frac{1}{4}(A+B)$ $3W \geq \frac{1}{4}A$ $\frac{1}{4}W \geq \frac{1}{4}A$
 W :有効窓面積 A, B :居室面積

地域又は区域	D/H
(1) 住居地域	4/10
(2) 準工業、工業地域	2.5/10
(3) 商業地域等、定のない区域	2/10

(2), (3)の地域または区域でDが5m以上あるときはD/Hにかかわらず有効となる。



令第21条、第22条（居室の天井高、床高及び防湿方法）

